

創刊にあたって

齋藤 博

東海大学の文明学科の創設は、昭和四〇年に溯り、文明学科アジア専攻の設置によってはじまる。その翌年に、ヨーロッパ専攻の設置をみる。今日では文明学科アジア専攻に、日本、東アジア、南アジア、西アジアの四課程が、ヨーロッパ専攻に、西欧、東欧の二課程が、そしてさらに大学院に文明研究専攻が置かれるにいたっている。そのすべての専攻、課程は、今年度、新しい卒業生を世に送り出すことになる。

このように文明研究の構想は、日本では本学の文明学科においてはじめて、大学の学部学科を通して具体化されたのである。そしてこのことは注目されるべきことであろう。文明研究の構想は、この一七年間、多くの研究者、学生の手によって着実に実現され、また実績を築いている。この学問共同体の直接の担い手は、文明学科に所属する教職員と学生の全体であることはいうまでもない。

そして今日、文明研究の構想は、これまでの実績を踏まえて、文明学科の教員、大学院生、学生、そして卒業生を中心に文明研究の学会活動として結実する時を迎えたといえる。ここに発刊の運びとなった『文明研究』は、われわれのこの学会活動を世に問うことになった。

本誌『文明研究』は、東海大学の文明学科においていわば生きられた学問共同体の活動に基づくものであることはいうまでもない。しかし今日、文明の「学」が既成の学問でないこと、あるいは未だ学問としての市民権を獲ていないと言えるかも知れないことを考えるとき、本誌はもう一つの大きな課題を引き受けることになるだろう。文明の

「学」が認知されるかされないかに関わりなく、われわれにとって文明を全体として捉え、理解しなければならぬという学的要求は、あらゆる学問の境界を越えて、基本的に妥当するだけでなく、また切迫したものである。このような今日の学問的状况のもとで、われわれの『文明研究』は上述の基本的な学的要求に応えようとするものになるであらう。